



日本文化と 日本語に興味津々!

スウェーデン交流センター職員

メリエム
エラノア セザーさん
Meryem Elanor Sezer

大好きな日本食

出身はスウェーデン王国ストックホルム市の西にあるエスキルストゥーナ市という人口10万人のまちです。母がトルコ人ということもあり、スウェーデン語、英語、スペイン語、日本語のほかにトルコ語も話せます。趣味は子どものころからやっていたピアノのほか、読書や旅行、身体を動かすものとしては、インドのダンス（バングラ）とかラテンのダンスなど激しいダンスが好きです。食べることが大好きで、母の影響もあり、好きな料理はケバブが代表的なトルコ料理ですね。日本の食べ物もとても好きで、特に甘い物、「おはぎ」や「きび団子」などはとてもおいしいと思います。当然、スウェーデン料理も好きですよ。作るのはちょっと苦手で、料理学校にも通っていたことがあるのですが、上手いかわなくてやめてしまった経験があるんです。今つくることができる料理は簡単なオムレツや、お肉や野菜を煮込んだものとかですかね。

何度も来日した結果

子どものころにテレビやインターネットの情報から、日本の文化や日本語にとても興味を持っていて、日本に行きたくてうずうずしてました。18歳の時に初めて、長野県のペンションで3カ月間住み込みで働きながら滞在していました。その後、日本を離れましたが、日本の事をもっと知りたい、日本語を勉強したいという思いが強くなり、一生懸命にアルバイトをしました。2008年に念願が叶って、札幌に1年間、日本語の勉強に来ることができました。札幌に滞在していた期間に、スウェーデン交流センターで行われている、「ルシア祭」に聖人ルシアとして参加させてもらいました。スウェーデンヒルズに来てみるとスウェーデンの田舎町に来ているかのような錯覚を起こし、とてもびっくりしました。レクサンド市にも行ったことがあるのですが、まさしくそこと同じ風景に見えました。1年間の滞在期間が終わり、再び日本を離れましたが、オックスフォード大学を卒業するタイミ

ングで、交流センターからお仕事の連絡が来たんです。

日本とスウェーデンの架け橋に

交流センターでは、イベントやセミナーの企画・運営、スウェーデン語講座、来日するスウェーデン人アーティストなどとの連絡調整などさまざまなお仕事をさせていただいています。センターの職員さんが親切でやさしいので、とても良い環境で毎日生活しています。スウェーデンにいても、地元では夏至祭のときは家族で楽しむだけでした。当別町の夏至祭は、大規模なレクサンド市の夏至祭を真似ているということなので、とても楽しみにしています。来年は当別とレクサンドの姉妹都市交流30年、その翌年は日本とスウェーデンの国交樹立150年となります。まずは、来年の30周年記念事業を盛大に行えるよう、一生懸命にお手伝いさせていただきたいと思います。

笑顔で話しをしてくれたエラノアさんは、車を手に入れ北海道中を旅行したいと言っていました。

(9月14日取材)